

末文になって申し訳ないが、このコジマヒゲナガコバネカミキリは林 匡夫 博士に同定して頂いた。厚く御礼申しあげる。同時に学名も同博士の御教示で従来の *Molorchus* 属でなく *Glaphyra* 属とした。

クビジロカミキリ神戸市内に産す (兵庫県甲虫相資料・137)

高 橋 寿 郎

クビジロカミキリ *Xylariopsis* (*Xylariopsis*) *mimica* Bates, 1884 (模式標本, 中禅寺, 札幌) は日本全国 (屋久島もふくむ), 朝鮮, 中支那, 満州とに分布しているが, 必ずしも多く産する種では無さそうである (青森県から初記録としてエゾエノキの根元の枯葉の下から越冬中のものが採集出来たと, 佐藤, 1983)。

兵庫県下からは従来宍粟郡の赤西が知られているのみで県下産としては珍しい種のようなのである。1983年5月8日神戸市内烏原貯水池畔で長い網で樹木の枝先を拘って1♀が入ってきた。樹種は確認出来なかった。温帯林帯のツルウメモドキに集まり, 幼虫はこれを食べると言われている。一応記録として報告しておき度い。はっきりした色彩をしているので同定の間違いは無いと考えられる (最近赤西のツルウメモドキから得たこの種の蛹を黒田祐一氏は図説しておられる, 1983)。

兵庫県下でのイガラシカッコウの分布 (兵庫県甲虫相資料・138)

高 橋 寿 郎

イガラシカッコウ *Tillus igarashii* Kōno, 1930 は北海道定山溪で採集された1♀ (3-Y-1928, K. Igarashi leg.) に基いて河野広道博士が図をつけて記載されたものである (*Trans. Sapporo Nat. Hist. Soc. Vol. XI, pt. 3, P.134~135, Fig.1, 1930*)。種名には採集者名が用いられている。

その後カッコウムシ科を研究しておられた伊賀正汎氏が鳥取県大山産で原色図説をされた (1955)。その時稀な種で燈火に飛来することがあるとされ, 大阪府能勢, 九州英彦山の産も記録しておられる。

中根博士の図説(1963)もあり、林 長閑博士も原色で図説しておられ(1975)、成虫、幼虫、ともに昆虫を捕食するものと思われると記しておられる。

ところで、兵庫県下での記録は三木 進氏のものが始めてあると思われる(きべりはむし, Vol. 5, No. 1/2: 17-18, 1977)。三木氏の記録は野外での採集でなく、三田市でネムノキ枯枝から羽化したものである(28-IV-1975)。その後全く記録は無かったように思う。筆者は1980年6月10日神戸市内の烏原で叩き網で1♂を採集した。以上2つの記録は一応発表しておいた(Irattsume, No. 6, P. 38, 1982)。本年も1♀を烏原で採集出来た。これも網で樹の枝先をすくって得たものである(1983年6月1日)。

前にも書いたようにハムシダマシに良く似ているので見逃されているのではないだろうか、県下にはもっと他の地にもいると思われる。今の所2ヶ所しか知られていない。まして生態の片鱗もつかめていない。なんとか調査をして見たいものだとつねづね考えている種の一つである。

ムネアカチビナカボソタマムシ神戸市内に産す (兵庫県甲虫相資料・139)

高 橋 寿 郎

1983年7月4日神戸市烏原で灌木を叩いて採集していたら始めて見るタマムシが入って来た。帰宅後調べて見たらムネアカチビナカボソクマムシ *Nalanda rutilicollis* (Obenberger, 1914) の♂であることがわかった。可成り分布の広い種であるが、本州では関東以西に見られる種のように幼虫はアカメガンソウを食べるとなっている。所で筆者の調べた範囲では兵庫県下からの記録の無い種であったので、此処に記録しておきたい。

イボタサビカミキリ兵庫県下での記録 (兵庫県甲虫相資料・140)

高 橋 寿 郎

イボタサビカミキリ *Sophronica obrioides* (Bates, 1873) は Bates が長崎を産地に *Lasiapholes* 属で記載されたカミキリである(Ann. Mag. Nat. Hist. (4) XIII, P. 382)。